



法政大学  
HOSEI University

情報メディア教育研究センター  
シンポジウム

2018年3月9日

# 心理学科における 反転授業実践報告

— 予習実施率を高く維持するために —

藤田 哲也

(文学部 心理学科)

芳賀 瑛

(情報メディア教育研究センター)

加藤みずき

(人文科学研究科心理学専攻博士後期課程)

# 0.本報告の概要

## 0-1.法政大学文学部心理学科「心理学測定法I」の授業目標と構成について

→授業目標を達成する手段としての授業方法

## 0-2.アクティブ・ラーニングの一形態である反転授業のデザインについて

→反転授業を実質化するのに必須である予習実施  
=成績評価に組み込む vs. 学生の自主性に委ねる

## 0-3.受講生からの授業外学習に対する評価

→授業方法への有効性の認知・コスト感からの示唆

# 1.測定法Iの授業目標と構成

## 1-1.カリキュラム上の位置づけ

- 2年次配当の専門科目(春学期2単位)
- 実質的に**必修**に近い
  - ⇒ 選択必修; 32/40単位の一つ
- 専任教員1名が2クラス担当(秋学期は別教員)
  - ⇒ 1クラス35~40名前後でリピート
- 内容は**心理学の質問紙調査の実習で、班活動が中心**

# 1.測定法Iの授業目標と構成

## 1-2.授業目標(シラバスからの抜粋)

半期授業終了時に以下のことができるようになるのが目標

- a. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明する。
- b. 既存の質問紙(心理尺度)を利用して、質問紙研究を計画・実施。
- c. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をする。
- d. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行う。

# 1. 測定法Iの授業目標と構成

## 1-2. 授業目標 (シラバスからの抜粋)

半期授業終了時に以下のことができるようになるのが目標

a. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明する。

b. 既存の質問紙(心理尺度)を利  
計画・実施。

c. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をする。

d. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行う。

この要素に  
反転授業

# 1.測定法Iの授業目標と構成

## 1-3.授業計画(概要)

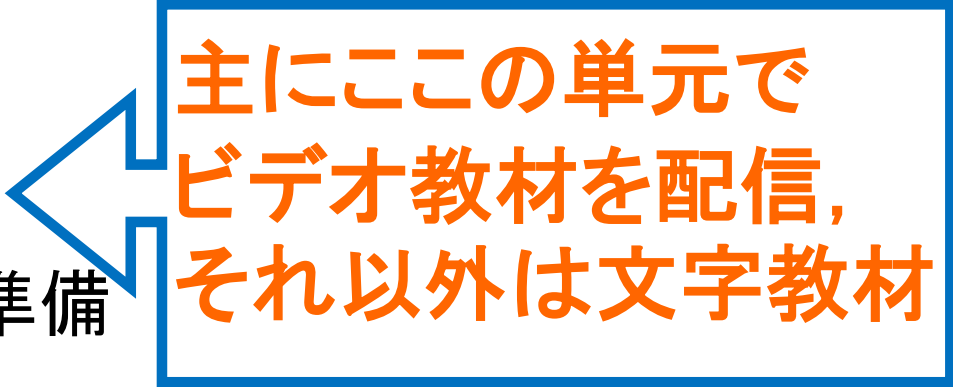
- 1        イントロダクション
- 2-4     質問紙作成の基礎
- 5-7     質問紙調査実施の準備
- 8-9     質問紙の実施
- 10      結果の分析と考察
- 11-12   発表準備
- 13      発表
- 14      発表＋総括

\* この授業全体で  
反転授業を  
中心とした  
アクティブ・  
ラーニングを導入

# 1.測定法Iの授業目標と構成

## 1-3.授業計画(概要)

- 1      イン트로ダクション
- 2-4    質問紙作成の基礎
- 5-7    質問紙調査実施の準備
- 8-9    質問紙の実施
- 10     結果の分析と考察
- 11-12  発表準備
- 13     発表
- 14     発表＋総括



主にこの単元で  
ビデオ教材を配信,  
それ以外は文字教材

## 2. アクティブ・ラーニング

### 2-1. 「アクティブ・ラーニング」とは

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う (溝上, 2014, p.7)。





## 2. アクティブ・ラーニング

### 2-2. 測定法Iにおけるアクティブ・ラーニング

- ・Project Based Learning (プロジェクト型学習)  
= **自分たちで調査を計画・実施することが**  
学生にとっての主たる課題
  
- ・基本的に班活動による授業  
⇒ 全員が**主体的・積極的に参加することが重要**  
⇒ 授業内の班活動を充実させるためには、  
**事前の予習(準備学習)が必要不可欠**

# 2. アクティブ・ラーニング

## 2-3. 反転授業

### 通常授業

教科書等で  
予習

授業時間内

授業で  
解説

各種の  
アクティブ・  
ラーニング

### 反転授業

教科書等で  
予習

授業ビデオ  
で予習

授業時間内

各種のアクティブ・  
ラーニング

ここ重要!

## 2. アクティブ・ラーニング

### 2-3. 反転授業

- ・ 予習の段階で理解不十分な箇所の**相互教授**  
=「わかったつもり」からの脱却

#### 協同学習の技法

「シンク=ペア=シェア」「ラウンド・ロビン」

「及ぼす影響”の実験について考える

- ⇒ 予習課題で作成した回答に基づき、**授業内で**  
**班活動**（話し合い＝班での回答を作成）

- ⇒ 班での回答を**クラスで共有し、フィードバック**

# 2. アクティブ・ラーニング

## 2-3. 反転授業

### ・ 予習課題：

授業プリントのpdfを事前に配信。  
各回2,3個の設問。

⇒ 回答 (Wordに設定した回答欄に記入) 作成後、  
授業支援システム経由で**授業前に提出＋印刷**

**\* ビデオ教材がある場合とない場合に大別**

# 2. アクティブ・ラーニング

## 2-3. 反転授業

### ・ビデオ教材あり:

- a. 第2回～第5回の授業用にOATubeで配信
- b. 一つの教材は長くて15分程度
- c. 1回の授業で2～3個のビデオ教材  
= 予習課題の設問箇所に関連した内容

# 2. アクティブ・ラーニング

## 2-3. 反転授業

### ・ビデオ教材なし:

文字教材は第2回～第14回の授業で共通:

第6回目以降はビデオ教材なしで、予習課題に取り組む→授業内での班活動に備える

= 基本的に最終回までこのスタイルを維持

# 3. 予習実施率

## 3-1. 2016年度の取り組み

### ・成績評価上の扱い:

予習課題の事前提出＝平常点40%に含まれる

...平常点は1回4点

＝予習課題事前提出＋出席＋感想用紙提出

・全15回(17課題)平均で**91%の事前提出率**

⇒第2～5回のビデオ教材あり部分では94%維持

⇒第6回目以降の平均は90%

・基本的に、出席者はほぼ予習をしてきていた

# 3. 予習実施率

## 3-1. 2016年度の取り組み

### ・成績評価上の扱い:

予習課題の事前提出 = 平常点40%に含まれる

... 平常点は1回4点

= 予習課題事前提出 + 出席 + 感想用紙提出

教育心理学者として、ここに着目

→ 高い予習実施率は...

「平常点」という報酬から? = 外発的動機づけ

授業内容への興味関心? = 内発的動機づけ



# 3. 予習実施率

## 3-2. 2017年度の取り組み

### ・成績評価上の扱い:

予習課題の事前提出＝平常点40%に**含めない**  
**内発的・自主的に取り組むべき課題と位置づけ**  
...平常点は1回4点＝出席＋感想用紙提出

### ・全14回(15課題)平均で**73%の事前提出率(↓)**

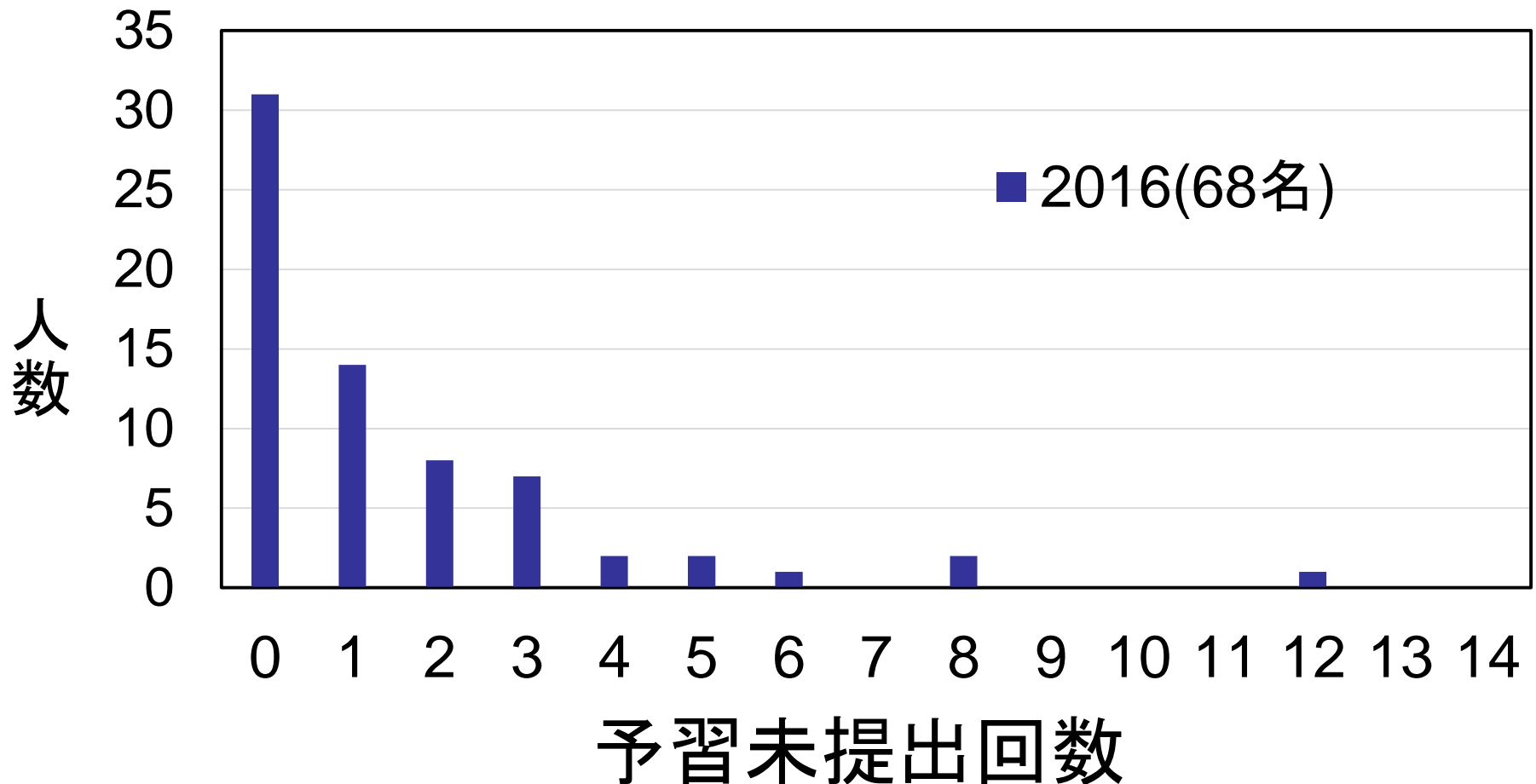
⇒第2～5回のビデオ教材あり部分では85%維持

⇒第6回目以降の平均は69%

### ・予習をしてくる学生としてこない学生に二極化

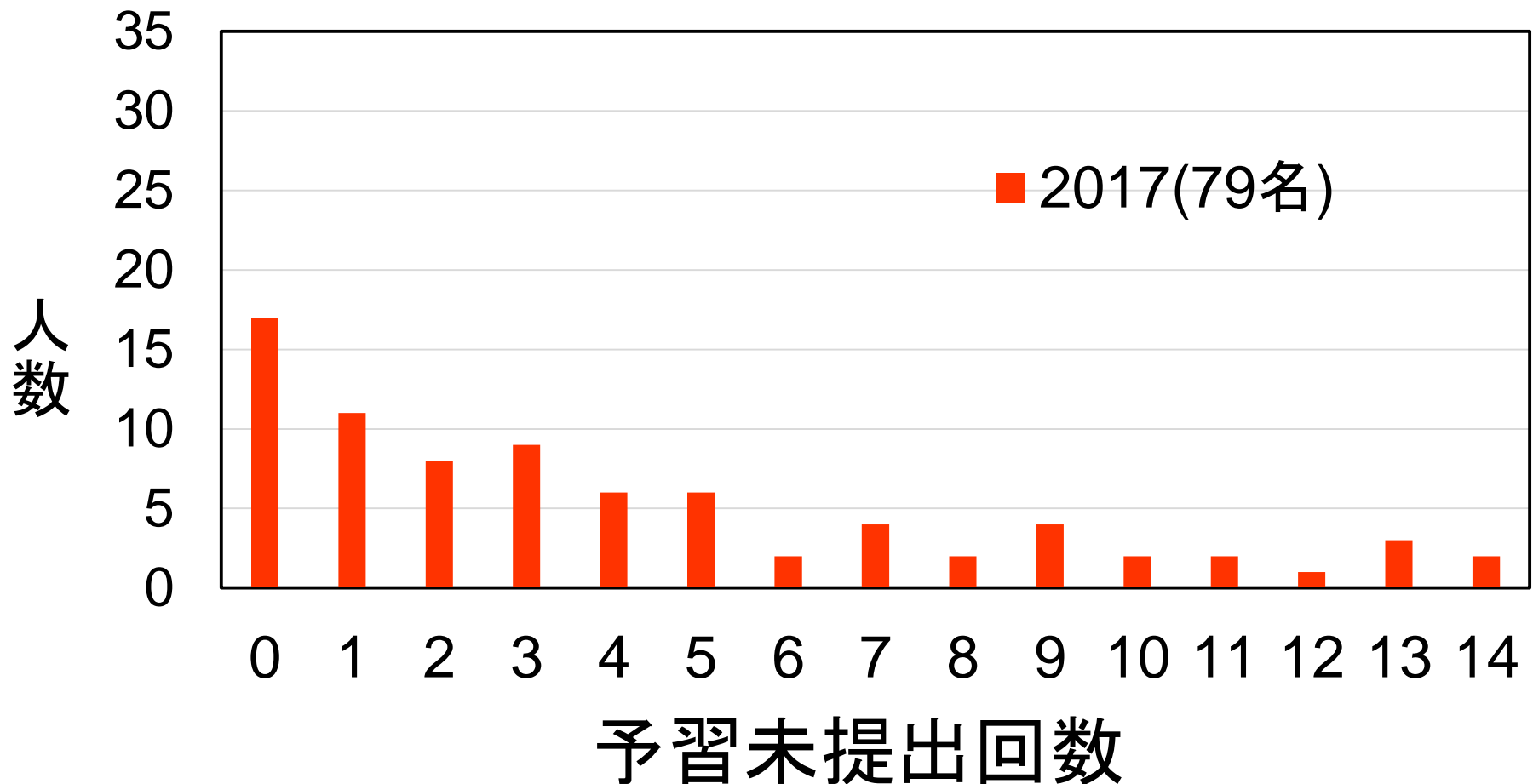
# 3. 予習実施率

## 3-3. 2016年度：予習課題が評価対象



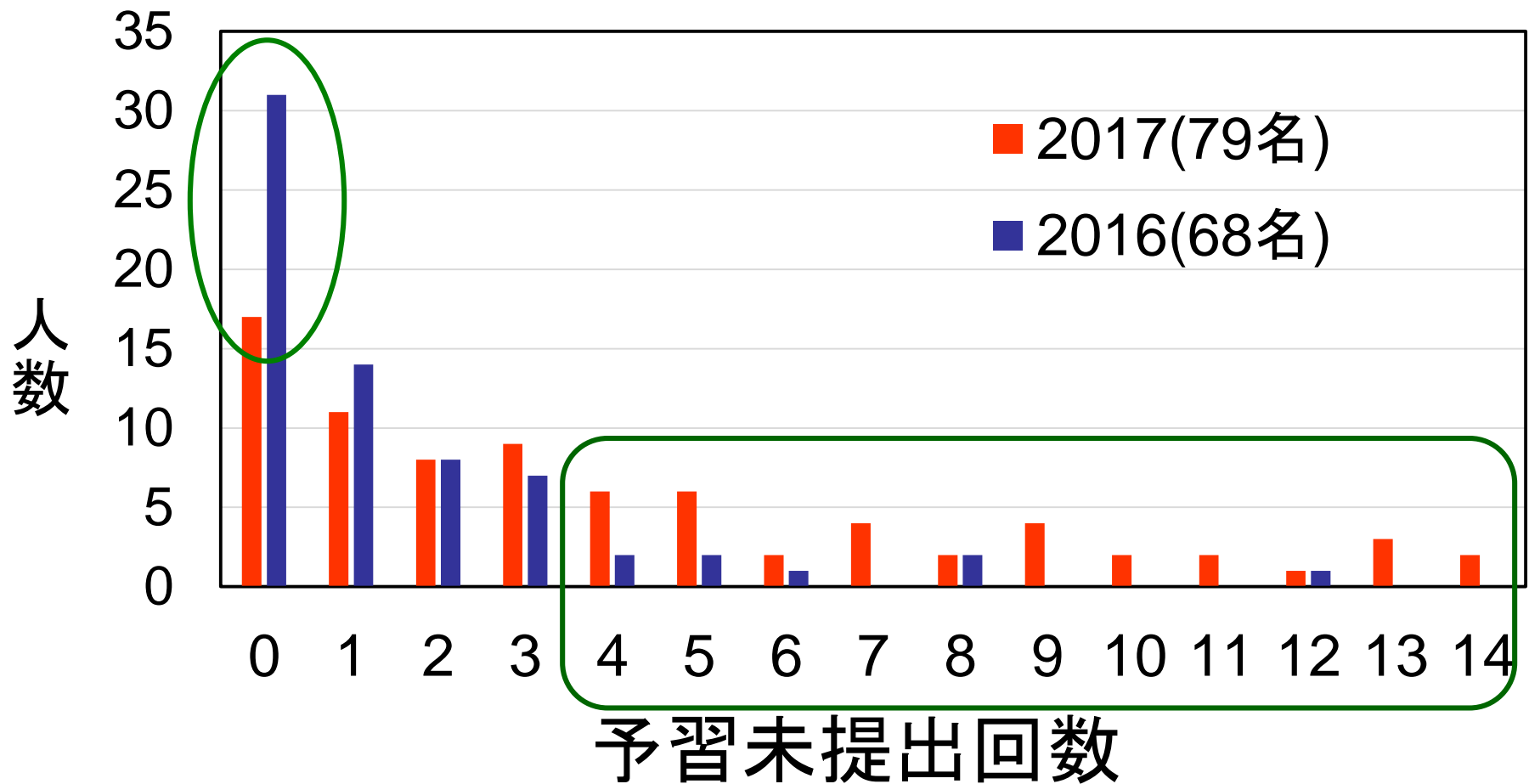
# 3. 予習実施率

## 3-4. 2017年度：予習は自主的な課題



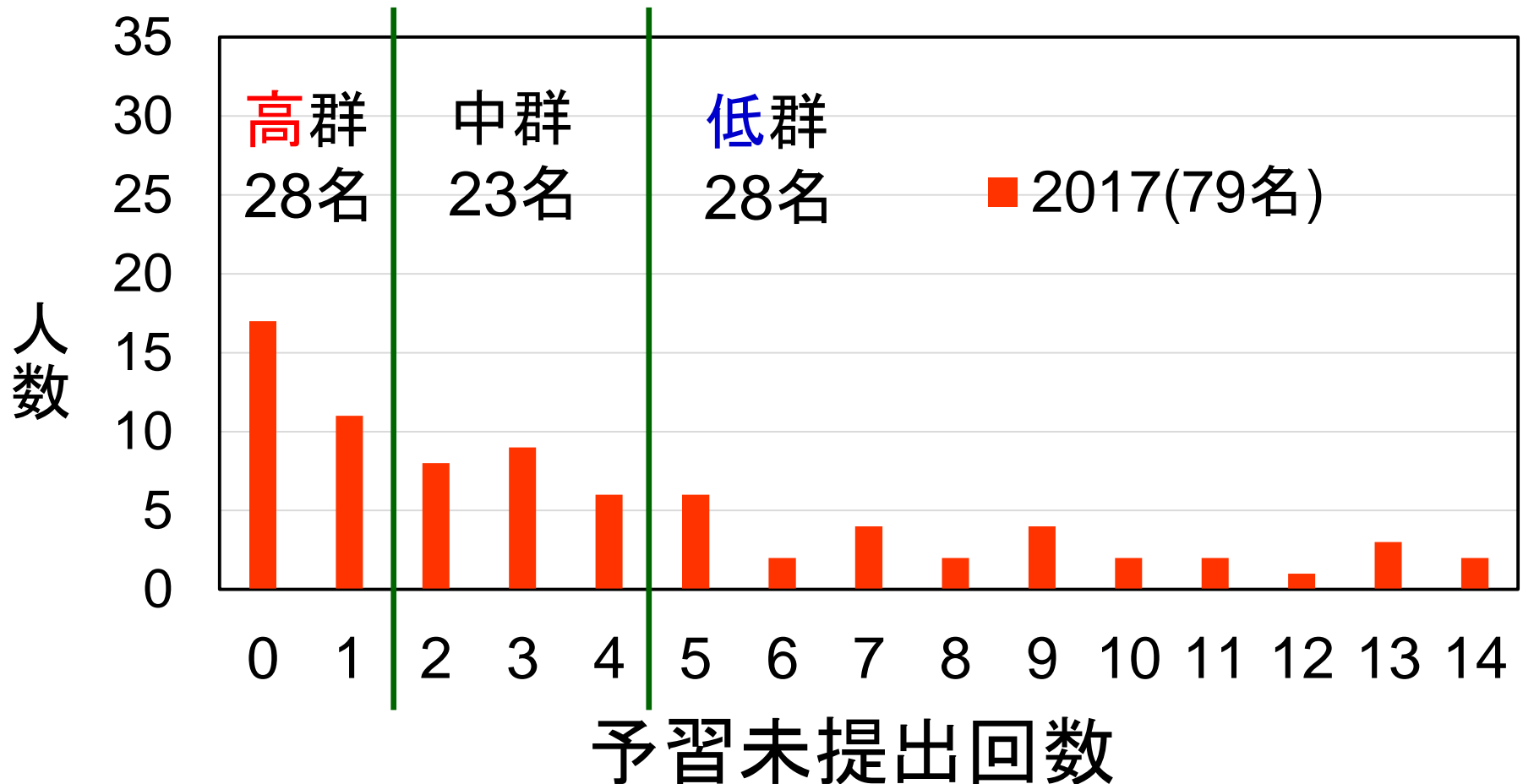
# 3. 予習実施率

## 3-5. 2016-17年度の比較



# 4. 学生の受け止め方の違い

## 4-1. 予習実施率の高・中・低で比較

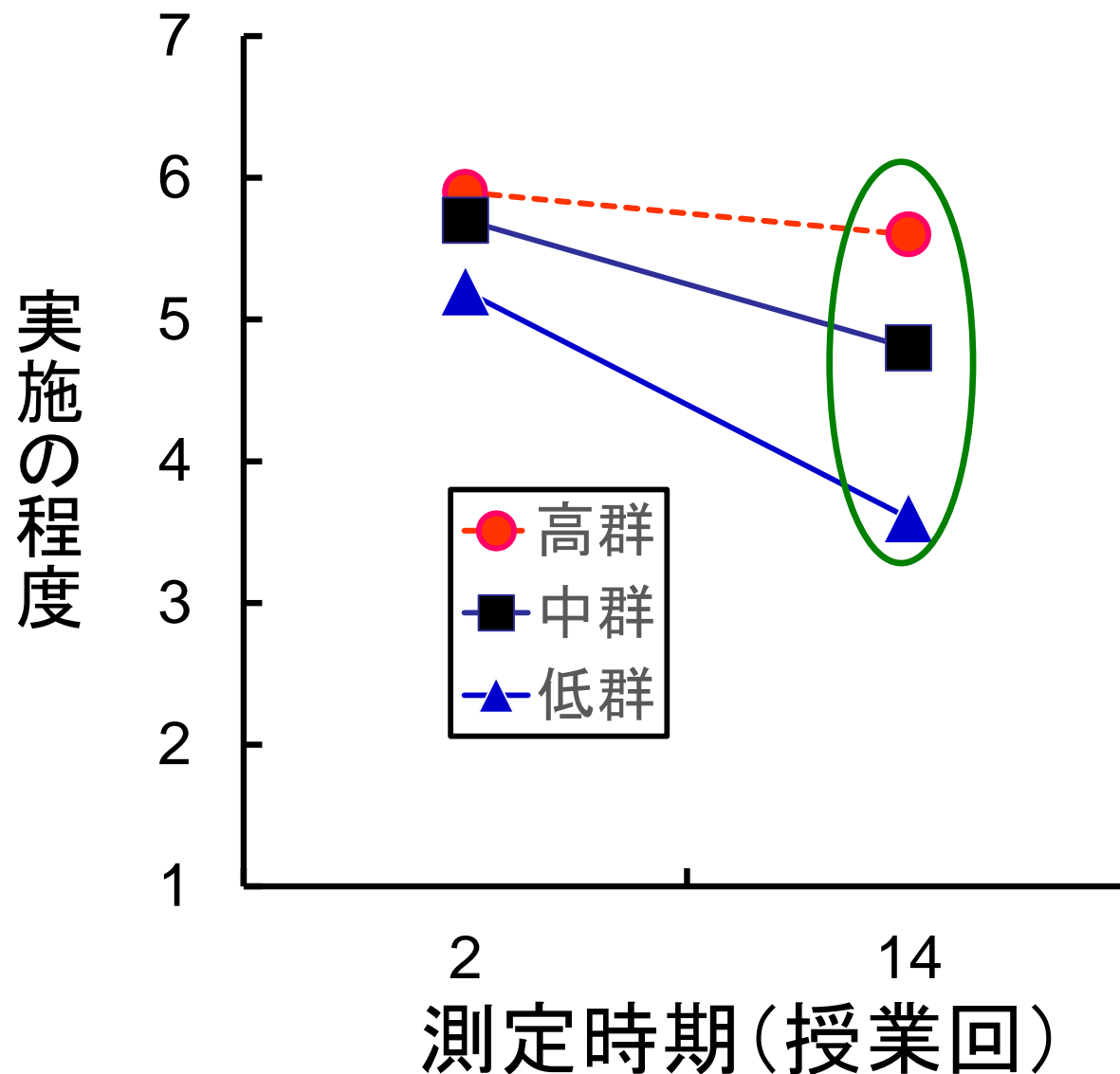


# 4. 学生の受け止め方の違い

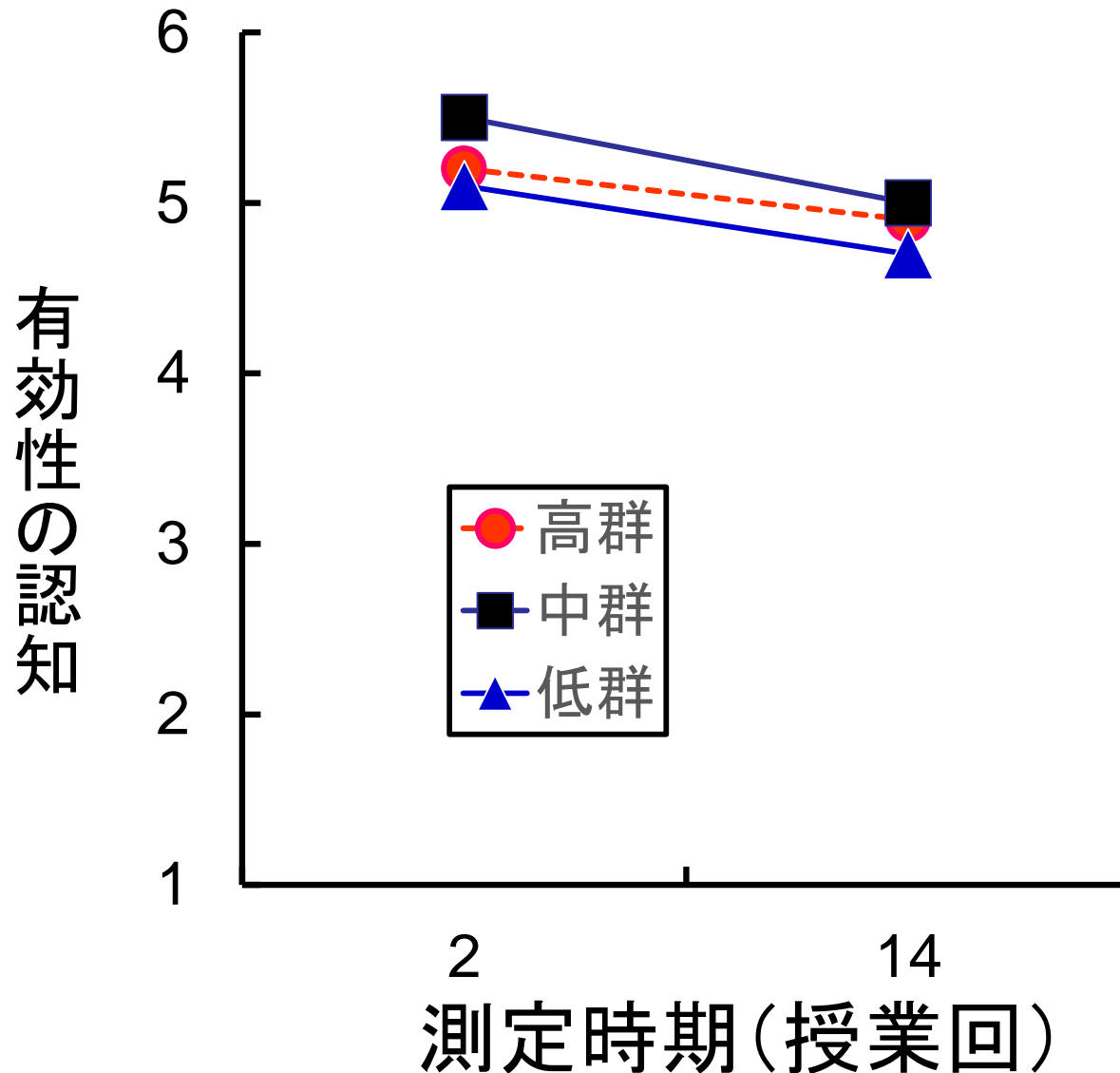
## 4-2. 授業外学習に関するアンケート実施

- ・第2, 14回の授業で授業外学習アンケート実施  
⇒2回とも回答した, 高群27, 中群22, 低群21名を分析
  
- ・ここでは「課題(宿題)に取り組む」ことについて  
⇒実施するつもり(実施した)程度,  
効果的だと思う(有効性の認知),  
行うのは面倒(コスト感)について, 6段階評定  
(6:非常によく当てはまる~1:まったく当てはまらない)

- 課題(宿題)に取り組むことを実施する(実施した)

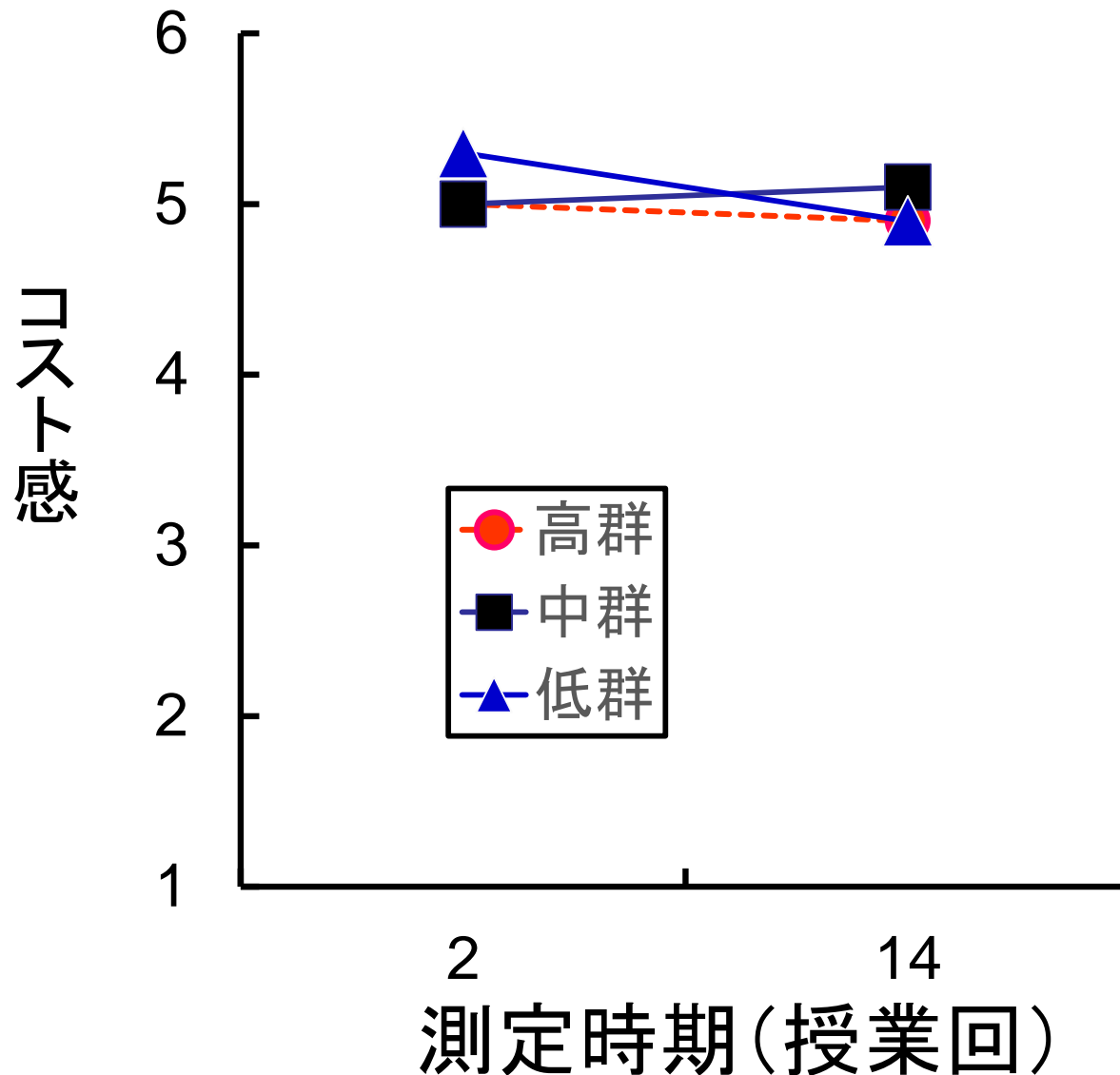


・課題(宿題)に取り組むことは効果的





・課題(宿題)に取り組むことは面倒だ



# 4. 学生の受け止め方の違い

## 4-3. 結果のまとめ

- a. 実施の自己評価は、ほぼ妥当（高 $\geq$ 中 $>$ 低）
  - b. 有効性の認知にもコスト感にも群差見られず  
+ いずれも高い評定値
- ⇒ 予習実施率の高い学生が、低い学生に比べ  
「課題が有効」and/or「面倒でない」と  
思っているわけではない
- = 実施率の低い学生に対して、  
背中を押してあげることは教育的配慮

# 5.まとめと今後の課題

## 5-1.授業運営上の反省点

- a.授業内のアクティブ・ラーニング(班活動)を  
実質化するために＝予習実施率の高値安定  
→外発的なしかけも必要(確信を持って導入)
  
- b.それでも欠席しがち & 予習課題未提出の  
特定の学生への対処  
＝当該授業だけでなく, 学科全体で取組?

# 5.まとめと今後の課題

## 5-2.授業の教育効果の検証

a.学生の学習成果をどのように評価するか

=現状では、「平常点」「成果発表」「班活動」が  
成績評価の対象

⇒発表には**ルーブリック**を導入

ルーブリック自体の運用について検証

b.授業内での活動性をどのように評価するか

=成果か, 過程か

⇒**ディープ・アクティブ・ラーニング**のとらえ方